

Vol.76 No.7 (No.907)

ISSN 1340-847X

知財管理

2026

7

Intellectual Property Management



一般社団法人
日本知的財産協会
Japan Intellectual Property Association

セトラスホールディングス株式会社

1. 会社の概要

- (1) 会 員 名：セトラスホールディングス株式会社
- (2) 所属部会：関西化学部会第1分科会
- (3) 資 本 金：1.44億円（2025年3月末現在）
- (4) 従業員数：グループ連結1,118名（国内2026年3月末現在，海外2025年12月末現在）
- (5) 事業内容：

当社は、1947年に協和化学工業所を設立し、海水中のマグネシウムを原料とした水酸化マグネシウムおよび酸化マグネシウムの製造開発から歩みを始めました。2022年の持株会社体制移行により誕生したセトラスホールディングスは、グループ連結売上高約420億円（2024年度）の規模を有し、R&D・知財・管理機能を担う専門集団として、各社の枠を超えた技術融合を媒介し、イノベーションを牽引しています。

グループの中核には、樹脂添加剤や医薬用原薬を展開する協和化学工業株式会社とオランダ、米国、中国、シンガポール、インドに拠点を置く海外子会社6社、医療用緩下剤「マグミット®錠」を展開するマグミット製薬株式会社、国内でフード事業を牽引する株式会社セトラスフードテックを擁し、現在は、環境、電子材料、食・健康、ライフサイエンス等の新領域への挑戦を加速させています。

(6) 企業理念：

当社は、「地球を豊かにする為にオリジナリティーを追求し、自分自分（ひとりひとり）が挑戦心をもって考え行動する」という理念を掲げています。次世代まで地球と共生し続けるため、初心を忘れず独創的な価値を提供し続けるとともに、価値の源泉である社員とその家族の幸せを

大切にすることを、経営の根幹に据えています。

(7) CIマーク：



社名「SETOLAS」は、当社の原点である「SETO（瀬戸内海）」と、地球を支える神「ATLAS」に由来し、瀬戸内から世界を支える新技術を発信し続ける強い意志を込めています。

2. 知的財産部門の概要

(1) 組織上の位置及び名称、所在

コーポレート機能の「知的財産部」として、香川県のイノベーションセンターと拠点を共にし、国内外のグループ全ての知財機能を統括しています。各事業をシームレスにサポートし、グローバルな競争力の担保に貢献しています。

(2) 構成及び人員

知的財産部の組織構成は、戦略立案から権利化、係争・契約等を担い技術を事業価値へ導く「知財創出課」、生成AIとIPランドスケープを駆使した調査分析を通じて経営やR&D部門の意思決定を支援する「知財インテリジェンス課」、そして事務や教育、各種制度運営を通じて知財活動の基盤を支える「知財管理課」の3課体制となっています。

総勢8名と少数ですが、そのうち4名が弁理士であり、自ら戦略を立案・判断できるプロフェッショナル集団です。最大の特徴は、部員の半数が完全在宅勤務という柔軟な体制により、全国から優秀な人材を確保している点です。

(3) 沿革：独立性の確立が転換点

当社の知財部門は研究開発部の一部門でしたが、予期せぬ知財係争を通じ、技術保護を優先

するR&Dの論理だけでは事業リスクを十分に予見・対策できないことを痛感。この教訓から、専門的な事業判断を客観的に下すための組織として研究開発部から独立。経営層と直接対話できる知的財産部として再出発し、現在の「攻めの知財活動」へ転じる大きな契機となりました。

3. わが社の知的財産活動

(1) 基本方針：事業優位性を担保する「数×質」の最大化

重点領域において「知財の絶対的な数×質」で他社を凌駕することを基本方針としています。特に、ライセンス交渉や不測の知財係争にも揺るがない防衛力を備えるべく、幅広く強固な知財ポートフォリオの構築を鋭意進めています。また、特許による技術保護に加え、商標や意匠を戦略的に組み合わせた「知財ミックス」を最適なタイミングで実行しています。これにより、事業の競争優位性を多角的に担保し、企業価値の最大化を盤石なものにしています。

(2) 特許戦略と知財DXの深化

当社の知財活動の要諦は、知財インテリジェンスを経営や開発の意思決定に直結させることにあります。これを実現する武器が、「生成AIをはじめとする最新テクノロジー」と「現場への超密着体制」の両輪です。重要テーマにおける膨大な市場情報や知財情報を生成AI等でスピーディに解析し、的確なアウトプットをタイムリーに提供し、経営層や各事業部門との間で質の高い議論を行い、遅滞なく次の一手へ繋げる「攻めのサイクル」を実現しています。また、Web会議等のツールをフル活用し、地理的制約を受けずにR&D部門のミーティングへ初期段階からリアルタイムで参画し、技術の芽を見落とさず権利化や回避戦略へと繋げ、意思決定の精度向上と開発スピードの加速に寄与しています。

(3) 多角化とグローバル展開を担う知財戦略 組織再編に伴い、旧来のブランドへの信頼を

堅持しつつ、新領域での独自ブランド構築を両立しています。特に、医療用緩下剤のうち酸化マグネシウムを有効成分とする市場で約半分のシェアを有し、約25億錠の年間総生産数を誇る「マグミット®錠」を展開するマグミット製薬株式会社では、その膨大な供給責任を果たす礎として、ブランドを法的に守り抜く「守りの知財」を徹底。また、世界で初めて合成・工業化に成功し、現在は樹脂用添加剤や医薬用原薬として世界トップシェアを誇るハイドロタルサイトや、難燃剤としてグローバル展開する水酸化マグネシウム等も、海外子会社と連携し、海外での模倣品排除や権利網の構築に注力しています。

4. 今後の計画、希望

現在、セトラスグループは5年以内の売上高1,000億円達成に向けて邁進し、その実現へ、価値提案型の新規事業を積極的に展開しています。その拠点として、香川県坂出市に2026年秋の本格稼働を予定している「イノベーションセンター」では、知財部門もR&D部門と緊密に連携し、イノベーションをさらに加速させます。

知的財産部は、全拠点の事業競争力を知財面から盤石にすると同時に、枠にとらわれない発想で新規事業を加速させる「成長エンジン」としての役割を担います。多様な人材が知財を共通言語として技術や未来を議論できる場を創出し、総力を結集し、社会課題の解決と地球の豊かさに資する独自の価値を創造し続けます。



イノベーションセンター（香川県坂出市）

（原稿受領日 2026年5月7日）



一般社団法人 日本知的財産協会
Japan Intellectual Property Association
<https://www.jipa.or.jp/>